



梅島小だより

「雰囲気の良い梅島小学校に」

主幹 高橋 伸弥

「ありのままの姿見せるのよ。ありのままの自分になるの ～ ♪」

昨年流行った、「アナと雪の女王」は、子どもたちに多かれ少なかれ影響を及ぼしたは事実でしょう。放送委員が選曲した給食の校内放送は、「アナと雪の女王」や「妖怪ウォッチ」が何度も流れました。掃除の時間、小刻みにリズムをとったり、歌い始めたりする子どももいます。

一昨年は、半澤直樹の「10倍返しだ」や林修先生の「今でしょ！」が子どもたちの口ぐせだったような…。今年は「ラッスン・ゴレライ・・・」？

流行や世相は、その時代に生きる子どもたちの生活や興味にも反映します。私も夢中になった、当時流行ったテレビ番組やヒーローたち、ドリフターズ、ウルトラマン、王貞治選手などのプロ野球選手、仮面ライダー、ピンクレディー、キャンディーズ（話がそれますがキャンディーズのスーちゃんは足立区梅田の出身だとか。最近知りました…）

そして、それは教育的な影響を及ぼすこともあります。アナと雪の女王から、素直さや自分に正直でいることの大切さを、半澤直樹からは社会正義を、「今でしょ！」からは決断と実行力というように。ウルトラマンや仮面ライダーが敵を倒す姿から勧善懲悪や正義感を感じたというのは言い過ぎでしょうか。

もちろん、この番組を見るのは子どもにとって悪影響ではと言われるものもあります。「家なき子」や「女王の教室」は保護者が見せたくない番組として物議を醸しました。良識を身につけるためには、悪影響ではと一般的に言われる内容も客観的に知っておくべきでしょう。

学校はカリキュラムに基づいて教育活動が進められています。

国語、算数、社会…というように年齢に合わせ教科ごとの授業や行事など体系化された「意図的な教育」をできる場合は、学校以外はないといっても過言ではないでしょう。

一方で、学校は授業がすべてではありません。一般に「無意図的な教育」とか「かくれたカリキュラム」と言われるものが存在します。

「かくれたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学びとっていく全ての事柄を指します。

その中ではその空間の「雰囲気」というものが大きな影響を与えます。

例えば、「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分です。和気あいあいとした朗らかな雰囲気の中で、そして、いじめを許さない雰囲気が浸透する教室での実際の生活を通して、「いじめを許さない人権感覚」を身に付けることができます。だからこそ、学校の、教室の「良い雰囲気づくり」が重要です。

この考え方をふまえると、学校、地域、家庭、友達、社会、流行、子どもをとりまくものすべてが「教育の場」であり、成長にかかわることになります。

教員は、学校と社会の風潮と断絶せず離れた世界という感覚をもたないように、社会の流行や世相を敏感に感じ、時代に合わせた柔軟な教育をしていきたいものです。

そして、今の子どもたちが大人になって振り返るとき、「あのときは、～が流行だったな。あんな歌が流行っていたな。」「梅島小学校に通ってよかった。楽しかった。」と言ってもらえるような「雰囲気の良い学校」であるように、努力していきたいと思えます。

